



TITLE:

教育空間創造ユニット:野殿・童仙房での生涯学習の取り組み 2009年度

AUTHOR(S):

前平, 泰志

CITATION:

前平, 泰志. 教育空間創造ユニット:野殿・童仙房での生涯学習の取り組み 2009年度. 子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究をめざして 2012, 活動報告書(2007-2011年度): 68-69

ISSUE DATE:

2012-03-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179727>

RIGHT:

野殿・童仙房での生涯学習の取り組み 2009年度

1. はじめに

早いもので、野殿・童仙房とのお付き合いも4年目を迎えることになりました。(教育実践コラボレーション・センターが立ち上がってからは3年目となります。)今年度は、本学研究科60周年を迎える年にあたり、6月14日に記念式典が行われましたが、その式典に「野殿童仙房生涯学習推進委員会」の役員さんたちも参列していただきました。また中村富士雄委員長には代表して祝賀会のスピーチもしていただき、あらためて大学と地域の結びつきの深さを大学内外に知ってもらうよい機会となりました。

今年度も昨年度に引き続いて様々な活動を行ないましたが、一つひとつの活動の中に知ることと体験することの意味が込められていて、それがまた全体として有機的に緩やかに結びついている活動だったと思います。以下は今年の活動の概要です。

2. 「ローカルな科学に向かって？」

—第4回 風と雲の広場「みんなの科学教室」

7月25日に開催した今年の「風と雲の広場」の企画は、ガリレイの望遠鏡が作り出されてから400年目に当たることから、あらためて「科学」を科学することを通して、科学の面白さを再発見してみようということで出発しました。「みんなの科学教室～作って・試して」という統一テーマを立てて、学校の制約を取り払って、私たちの五感を使いながら、科学を学びなおすことを目指したものです。



ゲストとして、市民サークル「星くらぶM57」代表の高垣禎夫氏に講師としてお願いし、望遠鏡のキットの組み立て教室を開催しました。あいにくその日は夕方から雨になり、星空の観察はできませんでしたが、子どもと一緒に私たちも真剣に望遠鏡を組み立てている様子には、「手を使う」ということの意味と重要性をあらためて感じました。

また、「広場」ではすっかりおなじみになった江角陸先生のご指導で、液体窒素を使って、バラの花を凍らせて分解したり、凍らせたバナナで釘を打ったり、「マイナス196度の世界」が、どのようなものであるか

を楽しみながら学ぶことができました。またさらに、畑で育て、収穫した無農薬のフレッシュハーブを使って、ハーブティー・お菓子・石けんを手作りする教室を開きました。

例年同様、「チャオ！」という地域通貨を使った物々交換の市場も行いました。また、地元の人の御好意で、おにぎりやパンの提供もあり、楽しさの中に学びを発見したり、学びの中に楽しみを発見したりする長い一日でした。

また「実演コーナー」として、京都からジャズライブSmile Brunch Orchestra、京炎そでふれ「彩京前線」、落語「馬鹿頭(ばかず)の会」が訪れ、みんなで一緒に楽しみました。また地元の方のご好意で、合気道の演武も披露していただきました。これらは参加者が「みる」だけではなく、実際に聞く・体を動かして体験することから学ぶ大切さに、改めて気づかせてくれるものでした。



3. 座談会「学ぶ原理～リョウシ（漁師×猟師）さんからみた森・里・海のつながり」

10月24日には、宮城県で牡蠣の養殖を専門とする漁師の畠山重篤さんと、京都の森で猪や鹿の狩猟をおこなう若手猟師の千松信也さんのお二人をゲストに、地元の中村富士雄氏を加えて、生活と自然のかかわりについて自由に語ってもらいました。畠山さんのご好意で、はるばる東北から持ってきていただいた牡蠣と帆立貝をいただきつつ、また、この地で採れた猪の肉と野菜を食しながら、現代の都市文明のもたらした光と



影について、尽きることのない議論が深夜まで続きました。

4. 「ローカルな料理を創作する」

7月5日には昨年一昨年に引き続き、sun-aid Eisukeの店主、阿山哲生さんに講師をお願いしました。今年は、地元で採れた農産物（大根、じゃがいも、キュウリ、原木栽培の生シイタケ）と、スーパーで買ってきたそれぞれ同じ食材とを、まずは視覚をさえぎって、触ったり、匂ったり、味わったりして、比較しました。この比較しながら食べることは、現在の家庭の食卓に上がる料理が、原体験としての味覚をどれほど継承されているかという日常の食生活への気づきや反省につながるものになりました。



5. 農作業体験「うねうね2」

4年目に入った農作業体験は、今回はサツマイモとハーブに限定し、5月に植え付け、10月に収穫を行いました。採れたサツマイモは、座談会「学ぶ原理」や南山城村「生き生き祭り」の参加者にも振舞われました。今回は「自然農」（無農薬・無肥料）の実験ということで、夏には驚くほど雑草が生えましたが、収量は落ちたもののサツマイモは元気に育ちました。畑仕事では通りかかった地域の方に鎌の使い方を習うなど、思いがけない学びや交流も生まれました。



6. 地域生活調査

8月に同地域の総合的な把握のための第一歩として、予備的なアンケート調査を童仙房において行いました。今回は試験的に約20世帯にご協力いただき、地域での生活についての質問に答えていただきました。今後この調査結果を基に修正を施し、あらためて本格的な調

査を実施する予定です。

7. 「人生の創造～ G. Pineau を囲む研究セミナー」

2010年1月にはガストン・ピノー氏（フランス・ツール大学名誉教授）を迎えて、「ライフヒストリーと生涯学習」と題して、これまで氏が行ってきたライフヒストリーと生涯学習の関係について、氏の経験を踏まえた講演を行っていただきました。また、24日には、哲学の道の探索、25日には学生、院生諸君をまじえての生涯学習に関するゼミナールを行ないました。私たちの地域の活動にも大きな関心を示してくれ、貴重な示唆をいただきました。



8. 夏祭り・秋祭り・生き生き祭り

地域が主催するお祭りにも学生、院生たちが参加し、普段なかなか接することの出来ない人たちとの交流をするなかで、新たな関係の輪が築かれていきます。今年は童仙房での夏祭りに初めて大学から参加したほか、野殿・童仙房の秋祭りにも調査に加わりました。大学院生による「研究開発コロキウム」では、神社祭祀への調査をつうじて、地域における伝統の継承について知見を深めました。また「出合」（草引き）や「しめ縄づくり」などの行事に参加することで、日常の地域の暮らしや思いを知る貴重な機会になりました。

（文責：前平 泰志）

